

# 社会福祉法人 深川愛育会 音江中央保育園

## 令和2年度保育園自己評価

音江中央保育園の保育士の自己評価をまとめ、これに基づいて反省、改善を行い、今後の保育園運営に役立てたいと思います。

### 【評価基準】

評価にあたっては、次の基準で行っています。

A～かなりできている（理想的な状況にある状態）

B～ほぼできている（取り組みなどを行い、頑張っている状態）

C～あまりできていない（もっと頑張らなくてはならない状態）

項 目	評 価	項 目	評 価
◎ 養 護	A	◎ 健康管理・食事	A
◎ 健 康	A	◎ 保育環境	A
◎ 人間関係	A	◎ 保育の方法・内容	A
◎ 環 境	B	◎ 子育て支援	A
◎ 言 葉	A	◎ 地域の住民や関係機関等との連携	A
◎ 表 現	B	◎ 運営管理	A
◎ 乳 児	A	◎ 栄養士自己評価	A

### まとめ

令和2年度は全体的には良い評価になったが、それぞれの具体的な評価について、細かく意見を出し合い、今後の保育に活かすようにした。「養護」では保育者の気持ちにゆとりを持つこと、急がず行動できる時間配分に気をつけることとした。「環境」については、玩具の遊びの工夫、遊びのルール、約束の徹底をしながら進めていくようにする。コロナ感染予防では食事中の会話を制限する代わりに、音楽をかけたり、給食の見た目の楽しさを工夫することとする。行事については、お遊戯会やお餅つき等、保護者不参加、もしくは中止となったため、保育園での様子が伝わるように、ポートフォリオの掲示は今後も続けていく。地域とのつながりや、小学校との連携ができず、今後コロナ禍の中でどのように進めていくか、課題となる。「表現」では製作活動の幅が広がるように、素材集めを保護者に協力してもらったり、自分の発想で自由に作れる環境を整えることにする。リズム運動では、子どもが楽しいと思える声掛けや、進め方の工夫が必要だった。保育士の質の向上では、キャリアアップ研修の参加はできたが、職員全体での園内研修が減り、資料の配布にとどまるなど、共通認識が十分にできず、感染対策をしながら研修を進めるようにしたい。